

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 33人

② 算数 33人

#### 5 留意事項

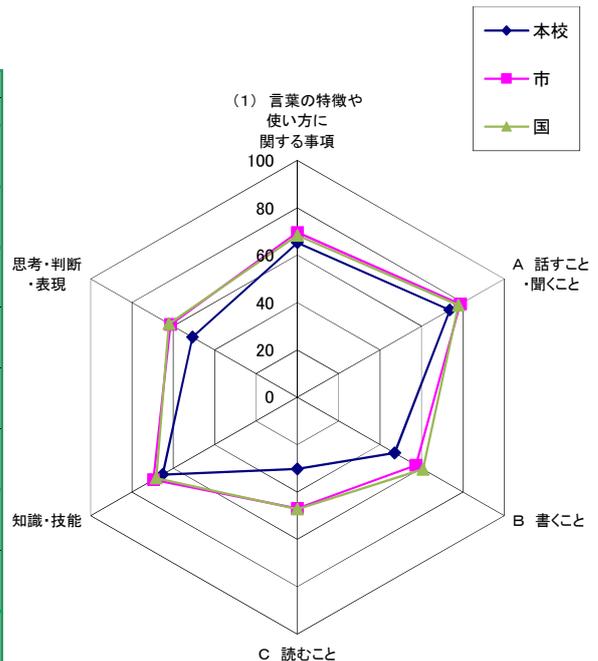
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立城山東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.2	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	73.7	78.7	77.8
	B 書くこと	47.0	57.3	60.7
	C 読むこと	30.3	46.9	47.2
観点	知識・技能	65.2	69.6	68.3
	思考・判断・表現	50.8	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



### ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

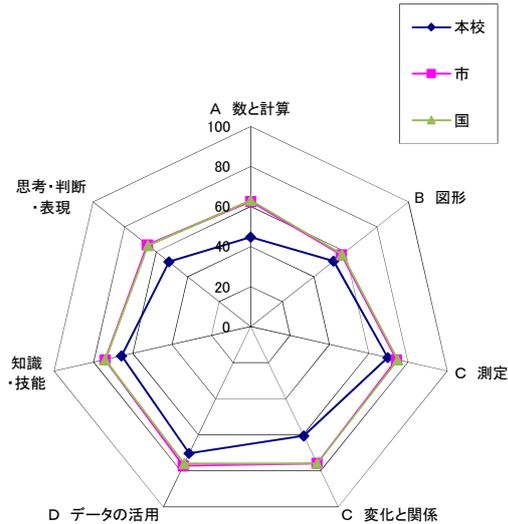
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	<p>正答率は、全国平均をやや下回っている。 ○文の中における主語と述語の関係を捉える問題では、全国平均を上回っていて、無解答者もない。7割の児童が適切なものを選択していると捉えることができる。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では、漢字を使って書き直すことに課題がある。また、文の中における修飾と被修飾の関係を捉える問題では、正答率が4割であり、言葉のつながりを意識して読むことに課題がある。</p>	<p>・既習漢字の確実な定着を図るために、「宮っ子学習ステップアップシート」等を活用し、朝の学習や家庭学習の課題等で、前学年までに学習した漢字の復習を繰り返す行う。また、言葉のつながりを意識して文章を読むように指導する。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>正答率は、全国平均をやや下回っている。 ○目的や意図に応じ、資料を使って話す問題では、全国平均を上回っていて、無回答者もない。8割の児童が話す内容として適切なものを資料から考えることができている。 ●目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題と、資料を用いて目的を理解する問題では、3割～4割の児童が適切なものを選択することができていない。目的に応じた資料を選び、構成を考えて話すことに課題がある。</p>	<p>・国語科の学習だけでなく、総合的な学習や他の教科や活動において、掲示資料等で話型を提示し、スピーチする場を意図的に設けるようにする。その際、目的に応じて資料を活用させたり構成を考えさせたりして、話の内容が明確になるよう指導する。</p>
B 書くこと	<p>正答率は、全国平均を下回っている。 ○目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、全国平均とほぼ同じで、5割の児童が書き方の工夫として適切なものを選択していると捉えることができる。 ●自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題では、6割の児童が適切なものを選択することができていない。目的や意図に応じて文章の構成や展開を工夫することに課題がある。</p>	<p>・国語科の学習だけでなく、総合的な学習の時間や他教科においても、自分の主張が伝わるように文章を書く活動を積極的に取り入れるようにする。</p>
C 読むこと	<p>正答率は、全国平均を下回っている。 ●文章全体の構成を考え、内容の中心となる事柄を把握する問題では、4割の児童が適切なものを選択することができていない。また、目的に応じ、文章と図表を結び付けて必要な情報を見付ける問題や、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約したりする問題では、正答率が1～2割に留まっている。資料を読み、条件に合うように文章を書くことに課題がある。</p>	<p>・説明文を読む際には、文章全体の構成を考えたり、文章と図表を結びつけたりして、内容の中心となる事柄を把握しながら読むように指導をする。また、自分の考えだけでなく、友達の考えをよく聞くように促すことで、新たな気付きにつなげたり、考えをより深めたりできるようにするとともに、目的に応じて文章の内容を的確に押さえて書くことができるように指導する。</p>

# 宇都宮市立城山東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	44.7	62.6	63.1
	B 図形	52.5	57.5	57.9
	C 測定	69.7	74.1	74.8
	C 変化と関係	60.6	75.8	75.9
	D データの活用	70.3	77.1	76.0
観点	知識・技能	65.7	74.1	74.1
	思考・判断・表現	51.9	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



### ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は県の平均を下回っている。 ○余りのある除法の商と余りを基に、必要な箱の数を答える問題では、7割の正答率であった。 ●商が1より小さくなる除法の場面で、場面から数量の関係を捉えて式に表し、計算する問題では、正答率が3割となった。 ●基準量と比較量の関係を説明する問題では、正答率が2割低かった。</p>	<p>・計算問題においては、授業だけでなく、朝の学習など様々な時間を使って反復練習をしていく必要がある。 ・式の意味を理解できない児童が多いので、文章を読んで立式する際は、数が何を表しているのかということを明確にししながら、文章問題に取り組んでいく。また、実生活に生かせる場面を考えさせ、身近な問題として問題を捉えるように指導していく。 ・式や答えに小数が入る問題の正答率が低いため、どのような仕組みで、小数点が移動するかや、余りの出し方など、計算のきまりをしっかりと確認し、繰り返し練習をする。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ問題では、7割の正答率であった。 ●直角三角形の面積を求める式と答えを書く問題では、正答率が5割に届かず、県の平均を下回った。</p>	<p>・図形については、性質の理解をしっかりとさせたい。また、実際に図形を紙で作ったり、動かしたりする活動を取り入れ、性質理解や組み合わせでできる様々な形の理解を深めていくようにしていく。 ・図形の面積を求める公式については、既習の内容を繰り返し復習し、三角形だけでなく、正方形や台形など様々な図形の面積を求める公式の理解を深めていくようにする。</p>
C 測定	<p>平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○条件に合う時刻を求める問題では、正答率が8割以上となった。 ●二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答え方を記述する問題では、正答率が約5割となった。</p>	<p>・速さの問題では、道のり・時間・速さの3つの関係について理解を深めるため、練習問題を解くだけでなく、実生活に置き換えて考えるなど身近なこととして問題をイメージできるようにする。また、問題文から道のり・時間・速さのどの答えを求めるのかということも正確に読み取れるようにしていく。 ・面積の問題では、単純な図形の問題だけでなく、加法や減法を使って求めるような複雑な図形の面積を求める問題にも取り組み、求め方を説明する時間を取り入れていく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○二つの速さを求める式の意味について正しいものを選ぶ問題では、正答率が5割以上で、県の平均を上回った。 ●一定の速さを基に、道のりと時間の関係について答える問題では、正答率が6割以上ではあるが、県の平均を20ポイント下回った。</p>	<p>・2つの数量について考察する問題では、問題に出てくる数が何を表しているのかについて考える時間を確保したり、算数だけでなく、社会や理科など、他教科とのつながりでも考えたりできるようにしていく。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○棒グラフから数量を読み取る問題では、正答率が97ポイントと非常に高く、県・国の平均を上回っている。 ○棒グラフから分かることを選ぶ問題では、9割近い正答率となった。 ●棒グラフに関する問題では、約4割の正答率となった。 ●データを二次元表に分類・整理する問題では、6割の正答率で、県の平均を下回った。</p>	<p>・棒グラフの問題はとてよくできているが、帯グラフの問題には課題があることから、それぞれのグラフの特徴やどんな場面で使うことが適切なかの理解を深めていく。また、他教科でも積極的にグラフを使ってまとめたり、グラフを読み取ったりする活動を取り入れていく。</p>

# 宇都宮市立城山東小学校 第6学年 児童質問紙

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」の質問に対して肯定的な回答をしている児童が県の平均より多い。周囲の友達や家族に支えられて、児童の自己肯定感・自己有用感が育ってきており、自分も周りの人の役に立ちたい、少し困難なことにもくじけず取り組んでいきたいという気持ちが育っている。さらに自信をもって良いところを伸ばしていけるよう、指導、支援を続けていきたい。

○学校の授業に関する質問の「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか」では、肯定的な回答が県の平均より多い。引き続き、考え議論する道徳の授業を行い、児童を育てていきたい。

○●読書に関する質問の「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」では、30分以上1時間以内と答えた児童が多く、県の平均よりも高かった。しかし、10分より少ないと答えた児童も多かった。図書室で本を借りたりたくさん読んでいたりしている児童がいる反面、ほとんど図書室を活用しない児童もいる。本が好きな児童に本の紹介などをする時間を作り、読書の楽しさがクラス全体に広がるようにしていきたい。

●家庭学習の取り組みについての質問の「家で計画を立てて勉強をしていますか」「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強を読みますか」の設問に対して肯定的な回答が県や市の平均よりやや少なく、学習時間も市や県の平均よりやや短い傾向にある。自分で時間を管理し、計画を立てて学習できるよう、家庭との連携を図りながら指導していきたい。

●国語と算数について勉強は大切だと考えている児童が多いにもかかわらず、好きという肯定的な回答は市や県の平均より少なく、国語は5割、算数は6割となっている。国語の「目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか」の設問肯定的な回答が低いので、視点を与えて読ませたり考えや感想を交流させる機会を増やしたい。

## 宇都宮市立城山東小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
復習により定着を図る学習の充実	・前学年までの「宮っ子学習ステップアップシート(漢字・言葉・計算・図形・量)」の計画的な実施	・算数の「棒グラフから数量を読み取って選ぶ」問題の正答率は、9割以上と繰り返しの学習の成果が出ている。 ・国語の漢字の読み・書きでは正答率が県の平均を、下回っているものもあり、さらに繰り返し練習を行う必要がある。
言語活動の充実による主体的・対話的な指導の実践	・学び合い活動の日常化 ・学び合わせるための課題設定や発問の工夫・考えを書いてから話し合うなどの学習過程の工夫 ・ペアや少人数グループなどの学び合い形態の工夫 ・話し方・聞き方の段階的な指導や話し合いのポイントを示した掲示資料の活用 ・本を介しての学び合い学習の実践	・国語の「話すこと・聞くこと」の領域の、「目的や意図に応じ、資料を使って話す」の問題では、約8割を超える正答率である。 ・質問紙における「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」では、肯定的な回答が県や市の平均より多い。

読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年20冊の必読書設定及び読書記録カードの活用</li> <li>・家読の推奨</li> <li>・読み聞かせボランティア等による読み聞かせの実施</li> <li>・学級担任と学校図書館司書との連携による、本を介した学び合いの授業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問紙の「読書をしますか」の肯定的回答は約4割だった。図書室に何度も行って本を借りたり読んだりしている児童が多い反面、ほとんど図書室を活用しない児童もいる。</li> </ul>
実感を伴った知識を身に付けるための、作業的・体験的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な物や事象について、実際に大きさを調べたり確かめたりする作業的・体験的な活動の充実</li> <li>・日常生活における身近な物を測ったり身近な事象に目を向けたりする機会の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の、「道のりの差の求め方と答えを書く」問題は、正答率が5割であった。計算の仕方の理解にも課題があるが、道のりや時間などの数の大きさの感覚をもつことも課題といえる。</li> </ul>

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>国語における言語についての知識・技能の正答率は、5割に達していないものもある。特に、漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。</p>	<p>復習により定着を図る学習の充実(言語についての知識・技能に重点を置く)</p>	<p>既習漢字の確実な定着を図るために、「宮っ子学習ステップアップシート」等を活用し、朝の学習や家庭学習の課題等で、前学年までに学習した漢字の復習を繰り返し行う。 また、作文指導などの際に、既習漢字を使うことや文と文のつながりを意識することを重点的に指導する。</p>